

平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

実施機関名（葛飾区教育委員会）

1. テーマ

科学的根拠(エビデンス)に基づいた発達障害の可能性のある児童を早期に把握、支援していくための指導内容・方法の改善

2. 問題意識・提案背景

これまで葛飾区では、教員の専門性向上や指導内容や方法の充実を図るとともに、発達障害の可能性のある児童・生徒に対する早期支援について、乳幼児期から一貫した支援を目指し、特別支援教育の体制整備の充実を図っているところである。

今後、葛飾区における特別支援教育、特に発達障害の可能性のある児童が就学前から連携を図って就学した時に、就学後も一貫した支援が通常の学級において継続・充実していける通常の学級担任の専門性の向上が課題となっている。

また、特別支援学級設置校の特別支援学級担当教員は、特別支援教育の重要な担い手であり、通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある児童を早期に実態把握し、適切な指導を図っていくための助言ができる資質・能力を身に付けていく必要があると考えている。

葛飾区としては、本研究を通じ通常の学級の担任の専門性を向上させるとともに、それを支える特別支援学級の担当教員が、通常の学級への助言を行う経験を積ませることにより、自らの専門性を認識するとともに、さらなる専門性向上の機会としたいと考えた。

3. 指定校について

(小学校の場合)

指定校名：葛飾区立梅田小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	77	3	65	2	66	2	66	2	66	2	65	2
特別支援学級	4		3		2	1	4		4		5	
通級による指導の対象者数							1				1	
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	13	1	2		1	4	1		3	27

指定校名：葛飾区立西亀有小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	73	3	52	2	50	2	56	2	56	2	60	2
特別支援学級												
通級による指導の対象者数			3		1		2		0		1	
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	18	1	4	1	2	1	1		2	32

4. 指定校における取組概要

- ・在籍する小学校１・２年生を対象としたMIM-PM等のアセスメントの実施及び実施結果を活かした、発達障害の可能性のある児童を含めたすべての児童がわかりやすいように配慮した指導方法の改善
- ・在籍する小学校１・２年生を対象としたMIM-PM等のアセスメントの実施及びその活用に向けた校内委員会などの組織を活用した検討の実施
- ・特別支援学級の担当教員による通常の学級における授業への助言等の実施
- ・ユニバーサルデザインの発想に立った授業研究の実施や、教室環境の整備及び先進校（東京都日野市立日野第三小学校）の視察の実施
- ・葛飾区で統一して実施する「葛飾教師の授業スタンダード」及び「かつしかっ子学習スタイル」で構成される「葛飾スタンダード」の全教員の統一の徹底

5. 主な成果

- ・実践的な研修やユニバーサルデザインの発想を取り入れた校内研究、先進校の視察などを通じて、教員が発達障害の可能性のある児童を含めたすべての児童がわかりやすいように配慮した授業作りに向けた関心を強くもつことができた。
- ・当初、発達支援アドバイザーが、率先してMIM-PMによるアセスメントを実施し、児童の毎回のMIM-PMの記録をグラフ化し、学校に変化を知らせたり、個別の配慮計画を作成し、つまづきがわかりやすく示せるように視覚化したり、担任が取り組みやすいよう手作りの教材キットを作成したりするなどの支援を実施したことで、客観的なアセスメントに基づいた指導の有用性を教員が実感し、積極的にMIMの教材等を指導に活用することができた。教員からも児童の変容など成果の報告が増えてきている。
- ・指定校の特別支援学級の担当教員が率先して取り組み、校内研究等を通じて、通常の学級の教員へ助言する様子が見られはじめた。
- ・特に、指定校の西亀有小学校は、校内研究においてユニバーサルデザインの発想を取り入れた研究を行い、環境整備を実施した。
- ・研修会などを区内の小学校に周知し、指定校以外の区内小学校においても、MIMを活用した指導を行いたいという小学校が８校程度あり、成果を還元することができた。各学校で自主的に取り組む学校も見られ、教育委員会が支援している状況である。

6. 今後の課題と対応

- ・MIM-PMによるアセスメントの実施結果を生かした個々の児童への支援・指導の実施。特に、配慮が必要な児童について、どう組織的な支援体制を構築していくかが今後の課題である。今後、管理職や特別支援教育コーディネーターなどで構成する校内委員会をより活用した体制づくりについて、教育委員会が助言し、一定のモデルを構築していきたいと考えている。
- ・通常の学級におけるMIM-PM及びMIM教材の実践については、個々の教員の経験や能力の差があり、発達支援アドバイザーが継続して支援する必要がある教員もいる。MIM等のアセスメントの有用性は理解できているので、より教員がMIM等に習熟し、指導力向上につなげられるよう研修等を充実していく。
- ・指定校の特別支援学級の担当教員のより高い専門性の向上が課題である。今後、校内の通常の学級の教員へ助言することに加え、研修会における講師などを経験する場を提供するなどして、専門性の向上を図る機会を充実していきたい。

・通常の学級における学習障害などの読み書きに障害のある児童に対し、一人一人の教育的ニーズに応じた支援機器としてタブレットPCの活用が、購入することができず、実践に結びつかなかった。今後、タブレットPCをMIM-PM等で支援の必要な児童に対して組織的に効果的に実践を重ねていけるよう教育委員会が助言していく。

・研究の成果還元については、実践報告書などを作成し、特別支援教育コーディネーター研修会などで報告しているが、区内の他の小学校において周知が十分ではない。今後、より区内や区外への成果の還元の方法について検討していく。また、保護者への周知も併せて実施していきたいと考えている。

7. 問い合わせ先

組織名：葛飾区立総合教育センター

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| (1) 担当部署 | 葛飾区教育委員会指導室特別支援指導係 |
| (2) 所在地 | 東京都葛飾区鎌倉 2-12-1 |
| (3) 電話番号 | 03-5668-7602 |
| (4) FAX 番号 | 03-5668-7607 |
| (5) メールアドレス | s-hoshi@city.katsushika.lg.jp |